

江戸川乱歩劇場 乱歩生誕百年記念

製作=TBS+バンダイビジュアル
企画製作協力=オズ+アワナ
配給=バンダイビジュアル

機械じかけの悪の華、
うつつの夢の桃源郷。



実相寺昭雄監督作品 三上博史 宮崎ますみ 加賀恵子 六平直政 嶋田久作

屋根裏の散歩者

製作=田澤正稔+鶴之沢伸 企画=滝本裕雄+川城和実 製作補=姉川佳弘 プロデューサー=一瀬隆重+瀬田素+石原真 原作=江戸川乱歩(新潮文庫「江戸川乱歩傑作選」所収/春陽文庫「屋根裏の散歩者」)
脚本=薩川昭夫 音楽=松下功 撮影=中塚正夫 照明=牛場賢二 美術=池谷仙克 録音=木村瑛二 編集=井上治 助監督=高橋巖 製作担当=宮内真吾

川島透監督作品 浜村純 鷺尾いさ子 藤田哲也 天本英世 館屋法水

押繪と旅する男

製作=並木章+村上克司 企画=田澤正稔+鶴之沢伸+滝本裕雄 製作補=川城和実+姉川佳弘 プロデューサー=一瀬隆重+瀬田素+石原真 原作=江戸川乱歩(春陽文庫「屋根裏の散歩者」所収)
脚本=薩川昭夫+川島透 音楽=上野耕路 撮影=町田博 照明=木村太郎 美術=池谷仙克 録音=宮本久幸 編集=高島健一 助監督=出射均 製作担当=宮内真吾



乱歩氏と私

私が、江戸川乱歩氏と知偶を得たのは、戦後間もない昭和廿七年の初夏であった。文士を始めとした各界の著名人達が入り交じる銀座のクラブに於てであった。歌舞伎俳優であった故中村勘三郎氏の紹介である。当時五十八歳の氏は、探偵作家クラブの名誉会長職に就かれる寸前で油の乗り切っていた頃であった。幼時より氏の作品のファンと云うより明智小五郎のファンであった私は、紹介が済むか済まぬうちに「明智小五郎ってどんな人なのですか？」と氏に問うた。返事は「切れば、青い血が出る様な人だよ。」であった。そして言葉を継いで「ところで君は、どんな血が出るんだい？」と私に質問を切り返した。私は「七色の血が出ます。」しゃりと答えた。「ほう、珍しい血だね。じゃ、切ってみようか？」とすかさず畳み込まれたので、「およしなさいまし、虹色の光で、お眼が濡れますよ。」とやり返すと「面白い子だねえ。顔といい、姿といい、頭の切れ工合といい僕の作品にピッタリだ。世の中にこんな子がちゃんどいるのが不思議だねえ。」とお讃めの言葉を頂いた。それが氏との初対面であった。それから氏は自らおしとやら仰りながら度々見える様になった。そしてやがて私が世に名前が出る頃にはすっかり御無沙汰となり、久し振りに再びお目に掛かったのは、親友の戸川昌子嬢が江戸川乱歩賞を頂いた折りであった。私が祝いの歌と祝辞を終えた後の雑談タイムで氏がゆっくり近附いて来られて「いやあ、矢張り君だったのか。丸山明宏と云うのは、君によく似てるなあ、ど思っていたらやっぱりそうだったのかあ。」と驚かれた。その後又疎遠となった。そして約十年

美輪明宏

程を経て、私が氏の原作、三島由紀夫脚色の「黒蜥蜴」を主演して大当たりをとるとは真に玄妙なる縁と思われてならぬのである。然し残念ながら氏は私がシンガーソングライターの元祖「よいとまけの唄」がヒットブームを呼び多忙をきわめていた昭和四十年に他界され、四十三年の私の「黒蜥蜴」の映画も舞台も御覧頂く事は出来なかったのである。色々の御縁の故もあってか、横溝氏の作品がブームの頃は私も何やら口惜しい思いもしていたが、近頃江戸川氏の作品が見直され脚光を浴びて来た事は真に御慶慶の至りである。土俗的な成金時代が終焉を告げ、洗練された都会派の時代になったのであろう。それは戦後、五十年近くの歳月を必要としたのである。頽廃美とは余裕なのであるからして。戦前戦後を通じて世に巧妙なる推理作家は数多輩出されては来たけれど、中々後世に残る作品となり得る人が出ない理由と江戸川氏との相異点は、夢幻性とロマンチズムとデカダンスによる。かのピカソを始めとしてギュスターブ・モロー、クリムト他天才芸術家達が綺羅星の如く輝き活動していたあの時代、印象派からアール・デコ、エロ、グロ、ナンセンスのアンニュイな匂い、高雅な毒の香りが江戸川氏と他の作品との決定的な違いなのである。高島華宵描く所の美男美女が最早現代には存在せぬ如く、江戸川氏の如く華麗なる情緒と夢幻の中にどっぷりと身を浸して生きる作家も又存在せぬと云う事である。切ない思いがする。春はめぐりやっどこれからと云う時には、もう天才達は宇宙の果てに消えてしまっているのである。

実相寺昭雄監督作品

屋根裏の散歩者

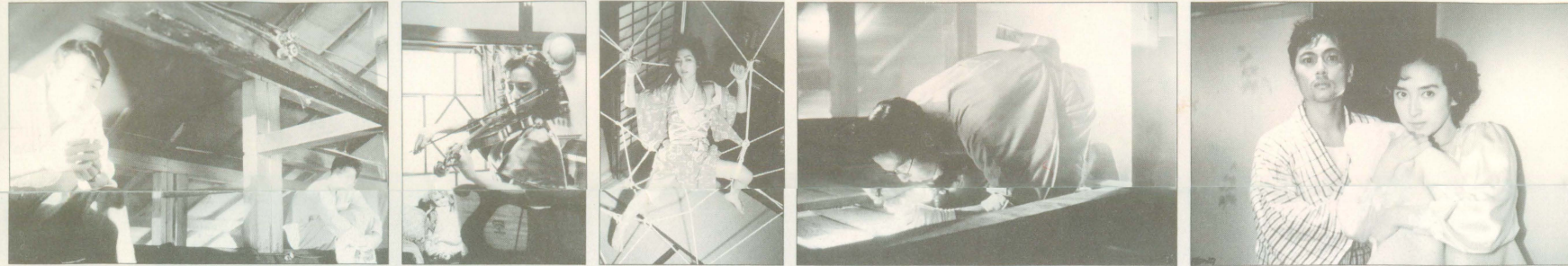
三上博史 宮崎ますみ 加賀恵子 六平直政 嶋田久作 清水ひとみ 鈴木奈緒 寺田農 堀内正美

製作=田澤正稔+鶴之沢伸 企画=滝本裕雄+川城和美 製作補=姉川佳弘 プロデューサー=一瀬隆重+瀬田素+石原真
 原作=江戸川乱歩(新潮文庫「江戸川乱歩傑作選」所収/春陽文庫「屋根裏の散歩者」) 脚本=薩川昭夫 音楽=松下功 撮影=中堀正夫 照明=牛場賢二
 美術=池谷仙克 録音=木村瑛二 編集=井上治 助監督=高橋巖 製作担当=宮内眞吾
 製作=TBS+バンダイビジュアル 企画製作協力=オズ+アワナ 配給=バンダイビジュアル

高等遊民を気取り、真っ当な遊びに飽き足らなくなって屋根裏を徘徊して節穴から覗きを繰り返す男が、遂には殺人まで行ってしまう。
 一見空想的で非現実的な物語でありながら、誰もの心の内に潜む欲求を炙り出す。「うつし世は夢 夜の夢こそまこと」という江戸川乱歩の座右の銘を端的に表現した初代を代表する短篇小説の映画化。
 監督は『帝都物語』や『悪徳の栄え』で見る者を耽美の世界に遊ばせてくれた実相寺昭雄。近年彼が取り組む『ラ・ヴァルス』に

始まるエロス路線を継承した、エロティズム溢れる作品でもある。まさに実相寺美学の集大成だ。
 撮影の中堀正夫、音楽の松下功は実相寺組の常連スタッフで、美術の池谷仙克も「ウルトラマン」の怪獣造形以来、実相寺とは度々コンビを組み、『陽炎座』『夢二』など鈴木清順作品でも知られる鬼才。
 屋根裏を徘徊する主人公・郷田三郎を演じるのは三上博史。寺山修司監督『草迷宮』でデビューした彼が、その原点に還って日本的耽美の世界に挑んでいる事に注目。乗りに乗って撮影現場を楽しんだ三

上は作品の出来に大いに満足している。
 郷田の完全犯罪を指摘する探偵趣味の男・明智小五郎(言うまでもなく乱歩の分身)には嶋田久作。実相寺作品は映画デビュー作『帝都物語』以来。ヴァイオリンを弾く令嬢で、精神に異常をきたしていく親子役に、東映Vシネマ『XX 美しき凶器』や写真集で話題の宮崎ますみ。他にも『シコふんじやった。』の六平直政、実相寺作品の常連・加賀恵子、同じく寺田農、元ストリッパーの清水ひとみ等個性派が名を連ね、仮面を剥がした生の人間の心理を見事に表現している。



川島透監督作品

押絵と旅する男

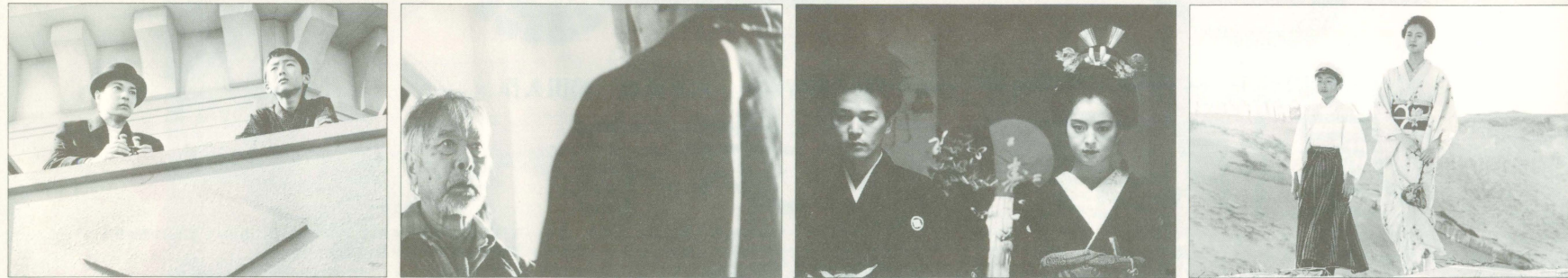
浜村純 鷲尾いさ子 藤田哲也 天本英世 館屋法水 多々良純 益富信孝 山崎ハコ

製作=並木章+村上克司 企画=田澤正稔+鶴之沢伸+滝本裕雄 製作補=川城和美+姉川佳弘 プロデューサー=一瀬隆重+瀬田素+石原真
 原作=江戸川乱歩(春陽文庫「屋根裏の散歩者」所収) 脚本=薩川昭夫+川島透 音楽=上野耕路 撮影=町田博 照明=木村太郎 美術=池谷仙克 録音=宮本久幸
 編集=高島健一 助監督=出射均 製作担当=宮内眞吾
 製作=TBS+バンダイビジュアル 企画製作協力=オズ+アワナ 配給=バンダイビジュアル

江戸川乱歩が長年こだわり愛したレンズや遠眼鏡。それらを通して夢の世界を垣間見ようとした彼の心情を心おきなく描いた短篇小説「押絵と旅する男」。名作初の映画化である。
 原作は、主人公の私が列車の中で出会った老人から不思議な話を聞かされるという構成である。蜃気楼を見物に行った帰りの汽車の中で、押絵を持った老人と出会う私。老人の兄は浅草十二階の上から遠眼鏡で見た美しい娘を探すが、実は娘は覗きからくりの中の八百屋お七だった。兄から遠眼鏡を逆にして見てくれと頼まれた老人は言われた通りにすると、兄は小さくなってからくりの中に入り、お七を抱き締めていた。

老人は兄が入った押絵とこうして一緒に旅していると語る。乱歩が憧れたエドガー・アラン・ポーの短篇を思わせる幻想の世界だが、この映画は原作を新たに解釈し直し、現代の東京と大正時代の東京、そして蜃気楼が現われる魚津の町を舞台にした、幻想美に溢れた映画に仕上げた。
 監督は金子正次の脚本・主演作『竜二』で衝撃的デビュー、『チン・ピラ』等のヒット作で知られる川島透。美術は『屋根裏の散歩者』と同じく池谷仙克、撮影はこれが劇場映画デビューとなる町田博。音楽はゲルニカの野野耕路。
 押絵に入った兄を想い、現代の東京を彷徨う元木邦晴老人を

演じたのは浜村純。名パイプラーとして知られる彼の88歳にして初の主演映画である。邦晴の少年時代は『少年時代』の藤田哲也。押絵に入る兄・昌康には東京グランギニョルを結成、同劇団解散後も演出家、俳優、画家等、幅広い分野に挑む館屋法水。'93年久しぶりに演劇活動を再開した彼の映画初出演作である。そして、兄嫁・百代は『わが愛の譜 滝廉太郎物語』で素晴らしいピアノ演奏を披露した鷲尾いさ子。少年の憧れの対象ともなる人妻を可憐に演じている。その他、ヴェテラン・天本英世、歌手の山崎ハコ等、魅力的なキャストが脇を固める。

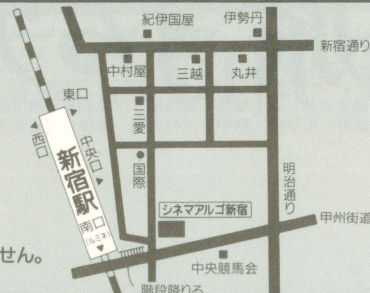


乱歩生誕百年記念 江戸川乱歩劇場

「屋根裏の散歩者」 「押絵と旅する男」

3月26日(土)よりロードショー

特別鑑賞券1400円・特別鑑賞回数券2400円好評発売中!
 (当日一般1700円・学生1500円のところ)「屋根裏の散歩者」はR指定のため、中学生以下の方はご入場できません。
 ★当劇場窓口および都内各プレイガイド、チケットぴあ、チケット・セゾンにてお求めください。



屋根裏の散歩者 上映時間					
連日	11:00	12:40	2:20	4:00	5:40 7:20
押絵と旅する男 上映時間					
連日	9:10PMより1回のみ上映				

シネマアルゴ新宿
 新宿南口、甲州街道沿い武蔵野通りゲームワールドB1 Phone:03-3350-6695